

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成29年度病虫害発生予察注意報第3号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第3号(トビイロウンカ)を発表したので、送付します。本年はトビイロウンカの発生量が平年に比べて多く(平成29年8月9日付病虫害発生予察注意報第2号および平成29年9月1日付病虫害発生予報第6号(9月))、9月上旬調査でも4割程度のほ場が要防除水準を超え、9月下旬以降収穫を迎える品種を中心に、「坪枯れ」が発生する可能性が高くなっています。

トビイロウンカは急激に増加しますので、ほ場での発生状況を早急に確認し、発生が多い場合は補正防除を行うように、防除指導をお願いします。

注意報第3号

- 1 対象作物：水稻
- 2 病虫害名：トビイロウンカ
- 3 発生地域：県下全域
- 4 発生量：平年・前年より多
- 5 注意報の根拠

(1) ほ場での発生状況

県内44の定点ほ場における、9月2半旬(9月4～6日調査)の10株当たりの払い落とし成幼虫数は、平均24.1頭(平年15.4頭、前年1.9頭)で、平年・前年より多かった(図1)。

発生ほ場率も90.9%(平年61.9%、前年55.3%)で、平年・前年より高かった。

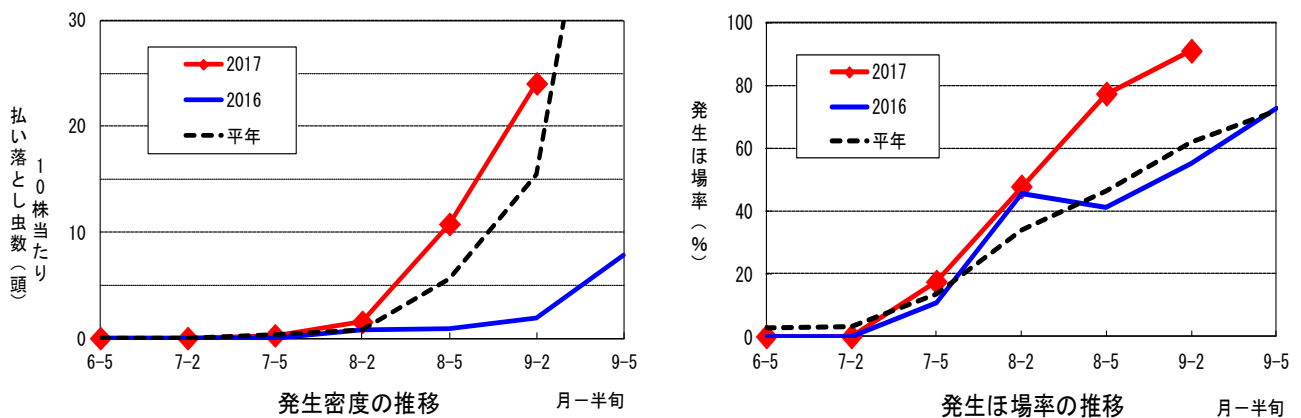


図1 トビイロウンカの発生密度と発生ほ場率の推移

齡期構成は中齡幼虫～成虫が多く認められ、飛来後第2世代の要防除水準（中老齡幼虫の合計が100株当たり100頭）を超えたほ場は、38.6%（8月5半旬：13.6%）であった（表1）。

表1 定点ほ場（普通植え）における齡期構成および短翅雌率、要防除水準を超えたほ場の割合

齡期構成（%）				雌成虫の短翅型率（%）	要防除水準を超えたほ場（%）
若齡	中齡	老齡	成虫		
9.7	35.6	24.6	30.2	70.4	38.6

(2) 今後の気象予報

福岡管区气象台が9月7日に発表した1か月予報では、9月9日～10月8日の気温は平年より高く、降水量は平年並とされている。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 現在、飛来後第2世代の中齡幼虫～成虫が多いが、第3世代幼虫も孵化を始めている。
9月中旬以降、飛来後第3世代幼虫の発生ピークとなるため、普通植水稻では9月下旬以降に収穫期を迎える品種を中心に、「坪枯れ」の発生が懸念される。
- (2) 本種の発生量はほ場間で大きな差があるので、ほ場の巡回を徹底し、発生量の把握に努め、要防除水準を超えたほ場では、早急に防除を行う。

<要防除水準：中老齡幼虫数>
飛来後第3世代（9月中～下旬）：100株当たり 1,000頭以上

- (3) 防除に当たっては薬剤が株元まで届くよう散布し、散布後に防除効果を必ず確認する。
また、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。

福岡県病虫害防除所ではQRコードを作成しています。
携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病虫害防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。

